2025 年度事業報告

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、一人ひとりの中にある、誰もが必ず持っている動き出さずにいられない原動力「わくわくエンジン®」を大切にする。主に子どもや若者に対して、自分を活かしていきいきと生きることができるよう、対話しながら原動力を引き出し、一歩踏み出し自分発で行動することを応援する。世代や地域、立場を越えて、あらゆる人たちがごちゃまぜになり、わくわくしながら学び育ち合う社会を共創造することを目指す。
（定款 目的 第 3 条より）

【2025 年度活動方針】

1．　多様な企業や団体などとの協働を強化して、「自分の原動力に気づき、一歩踏み出し、未来をつくることのできる人」の創出に取り組み、日本の活性に貢献する。

2．　一人でも多くの人がいきいきと仕事をして生きることができるように、プログラムの意味や意義、プログラムの活用方法を分かりやすく伝え、プログラムのコモンズ化の実現に向かう。

3．　会員がのびやかに、自律的に活動できる組織の在り方を目指す。

【2025 年度の重点施策】

1．　近しい想いを持っている企業、団体、行政、有識者、教育関係者などに積極的にアプローチし、協働できる仲間を増やす。

2．　プログラムのコモンズ化を目指すに当たり、その意義を明確にし、公開の段階的計画を検討する。

3．　①地域チームがのびやかに活動できる仕組みを検討する。
②会員が取り組みたいテーマのチームを発足しスタートする。
③個人パートナー（対面/オンライン）の仕組みを検討し、モデル的にスタートする。

【2025 年度活動報告サマリ】
2026 年 3 月末までにプログラムを受けた子どもの数　のべ 72,979 人（累計）

重点施策に対する報告

■実績

１．近しい想いを持っている企業、団体、行政、有識者、教育関係者などに積極的にアプローチし、協働できる仲間を増やす。

◆企業、団体、行政、有識者、教育関係者などに積極的にアプローチし、協働できる意欲ある仲間が増えた。

◆特に関西方面で活発に活動が起こり、経営者向けイベント（大阪市）、地域の大人向け講演会（大阪府枚方市）、わくわくナビゲーター養成講座（2 箇所：大阪府枚方市・滋賀県多賀町）を開催し、チーム北大阪の結成に繋がった。

◆青森県知事参与との繋がりにより、新潟市教育委員会主催の教員研修に、青森県教育委員会からの視察が実現した。

◆川崎市のカラーズフューチャーサミットを通して、川崎市シティプロモーションとの繋がりができた。

◆教育立国推進協議会、教育改革国民運動といった省庁や政治家、教育改革推進者たちが進める活動やイベントに参画し、ネットワークを作れた。

２．プログラムのコモンズ化を目指すに当たり、その意義を明確にし、公開の段階的計画を検討する。

◆教員が自分のクラスで 1 人でも行うことができるような教材パッケージ製作を、教員の会員たちが主体となって進めた。

◆講演活動においてプログラムのノウハウ部分を開示することにより、その場の方々の納得感をより提供することができるようになった。

３．会員がのびやかに、自律的に活動できる組織の在り方を目指す。

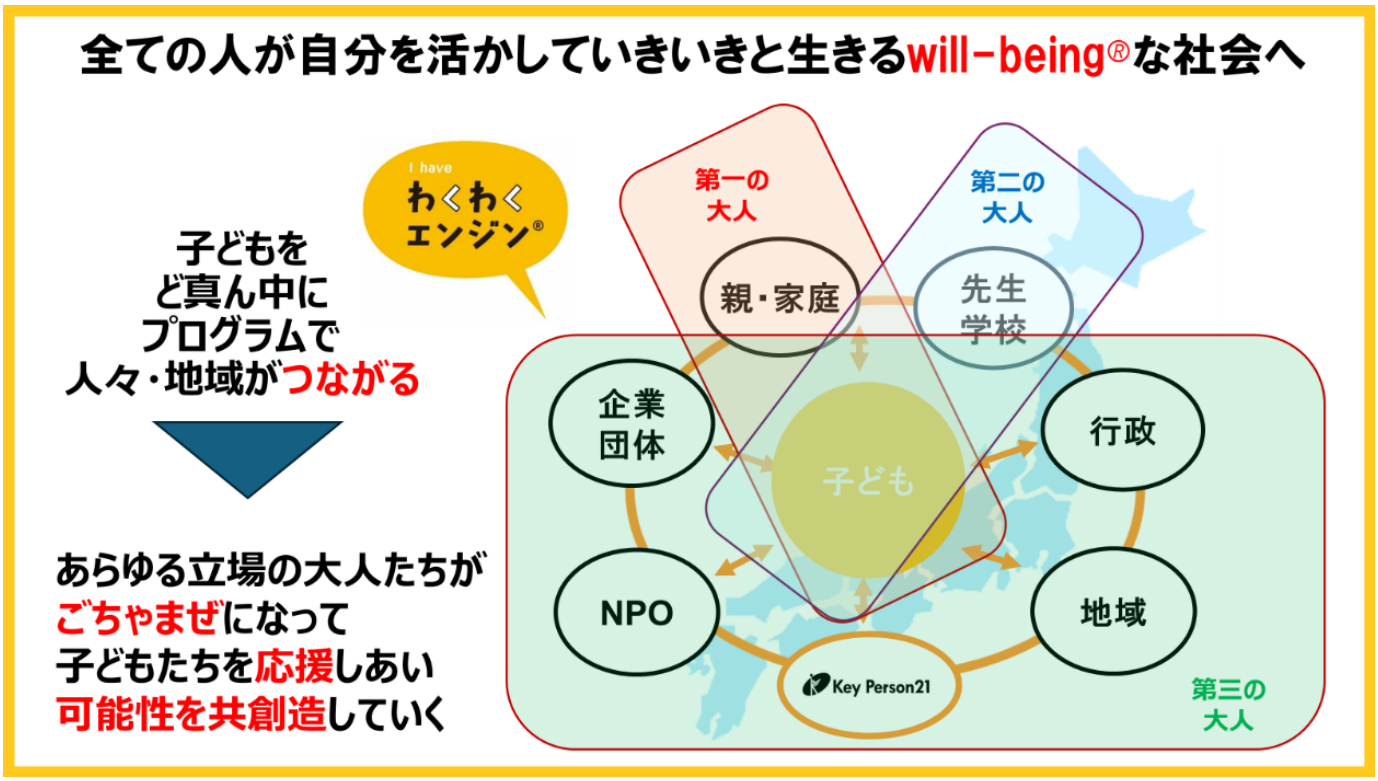
◆会員が財産であるキーパーソン 21 にとって、会員が主体の活動推進モデルができ、会員組織としての理想の形が実ってきた。会員の発想や知恵、人脈や思いによって、キーパーソン 21 の活動が活性化する土台ができた。

◆会員が取り組みたいテーマのグループが 2 つ発足しスタートした。

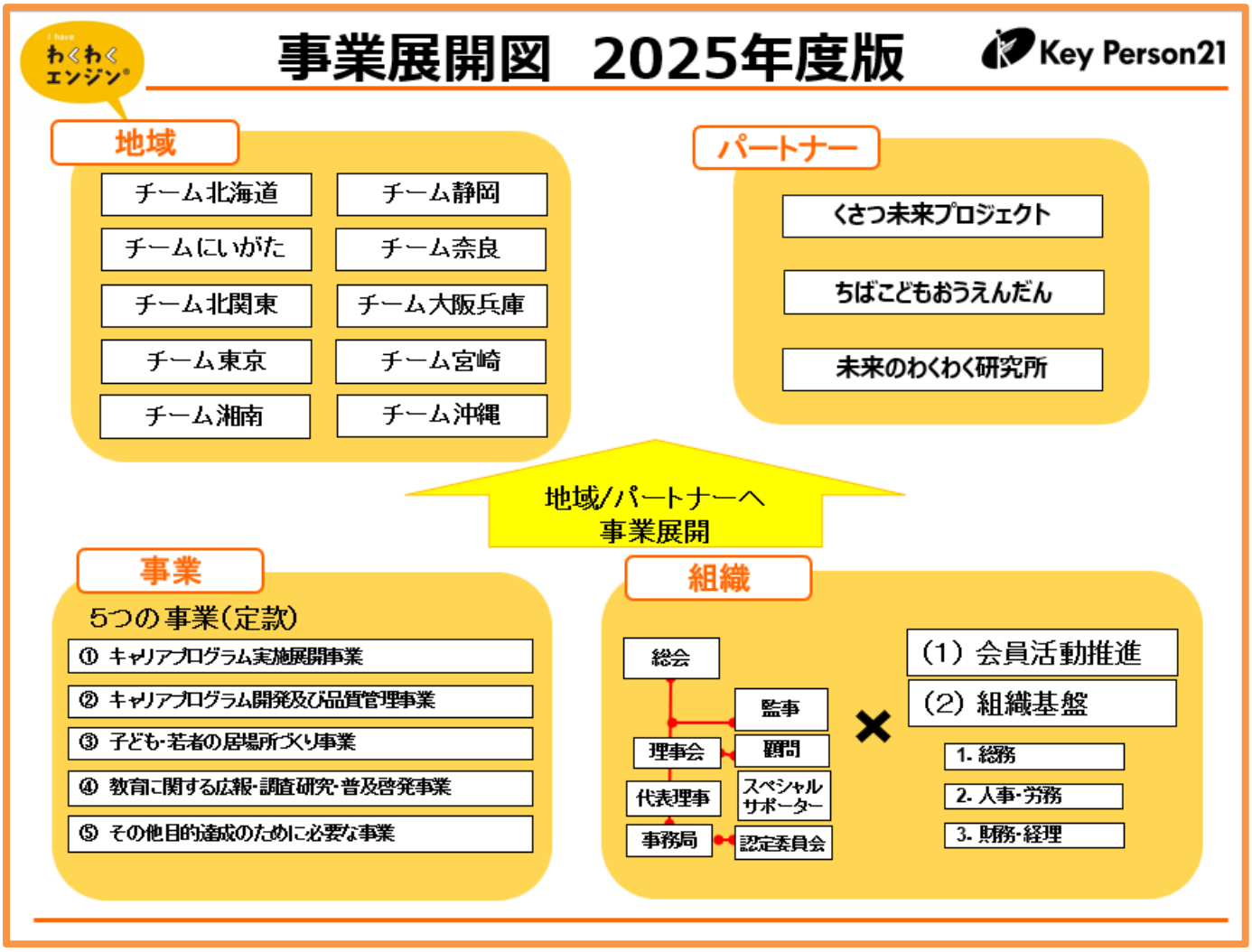
①教員が自分のクラスで行いたいときに行える教材パッケージの製作と提供を行うグループ

②保護者向けに子どもとの関わり方を学ぶための施策案を考え実行するグループ

◆地域チームに所属しない個人会員の活躍の機会を創出することが急務であった。わくナビ個人パートナーの仕組みが整い、会員が一人でも実行できることとなった。


全ての人が自分を活かしていきいきと生きるwill-being®な社会へ
I have わくわくエンジン®
子どもを
ど真ん中に
プログラムで
人々・地域がつながる
あらゆる立場の大人たちが
ごちゃまぜになって
子どもたちを応援しあい
可能性を共創造していく
第一の大人
第二の大人
第三の大人
親・家庭
先生
学校
企業
団体
行政
子ども
NPO
地域
Key Person21

【事業展開図】


I have わくわくエンジン®
事業展開図　2025年度版
Key Person21
地域
チーム北海道
チーム静岡
チームにいがた
チーム奈良
チーム北関東
チーム大阪兵庫
チーム東京
チーム宮崎
チーム湘南
チーム沖縄
パートナー
くさつ未来プロジェクト
ちばこどもおうえんだん
未来のわくわく研究所
地域/パートナーへ
事業展開
事業
5つの事業（定款）
① キャリアプログラム実施展開事業
② キャリアプログラム開発及び品質管理事業
③ 子ども・若者の居場所づくり事業
④ 教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
⑤ その他目的達成のために必要な事業
組織
総会
監事
理事会
顧問
代表理事
スペシャルサポーター
事務局
認定委員会
×
（1）会員活動推進
（2）組織基盤
1. 総務
2. 人事・労務
3. 財務・経理

2025 年事業計画　目次

【キーパーソン 21 の活動目的】
【2025 年活動方針】
【2025 年の重点施策】
【2025 年度活動サマリ】

（１）特定非営利活動に係る事業
【事業部門】
1．キャリアプログラム実施展開事業
1-1. 家庭教育
1-2. 学校教育
1-3. 社会教育
1-4. 地域チーム
1-5. パートナー
2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業
2-1. プログラム開発
2-2. 認定委員会
2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座・研修
2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成
2-5. 個人パートナーの仕組みづくり
3．子ども・若者の居場所づくり事業
3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会「なかわく」通称）（川崎市）
3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会「こすわく」通称）（川崎市）
3-3. 寺子屋（川崎市）
3-4. 不登校対策の居場所づくりの検討
4．教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
4-1. 講演/セミナー/研修
4-2. 企業や地域のネットワークづくり
4-3. 広報
５．その他目的達成に必要な事業

【管理部門】
１．会員活動推進
２．組織基盤
2-1．総務
2-2．人事・労務
2-3．財務・経理
３．戦略

（２）その他の事業
1．寄贈品、グッズなどの物品販売
2．著作、出版物の制作・販売
3．会員のサークル活動支援事業

2025 年度決算書
【財務諸表】
- 活動計算書
- 貸借対照表
- 財務諸表の注記
- 事業別損益の状況
- 地域チーム実施損益の状況
- 財産目録

（１）　特定非営利活動に係る事業

【事業部門】

１．キャリアプログラム実施展開事業

◆内容：キャリアプログラム実施展開事業
◆日時：「2025 年度事業実施実績一覧表」P.11-14 参照
◆場所：　同上
◆従業者人数（プログラムに関わった人数）：のべ 1,272 名
会員：777 名（個人会員：716 名、パートナー：61 名）、
非会員：495 名（協賛企業社員：86 名、地域サポーター：114 名、
教員・教育委員会：112 名、応援者・見学・取材・その他：183 名）
◆対象者：のべ 3,943 名（子ども： 3,878 名、大人： 65 名）
◆収益金額：￥14,115,541　費用金額：￥12,368,350

■25 年度のテーマ
・家庭教育、学校教育、社会教育において、子どもたちと関わる大人たちの理解促進を図る。
・「わくわくエンジン®」から「やってみたい！」を応援される経験によって、一歩踏み出す勇気を持つことにつなげる取り組みを、「殻をやぶれ！わくわくたまご」プロジェクト、学びの多様化学校、不登校支援の居場所などで実施し、展開できるよう取り組む。

■25 年度の目標
・家庭教育：学校実施校の保護者向けと一般の親向けでアプローチの方法を変えて、親の理解促進を強化する。
・学校教育：教員や学校教育が抱えている課題の解決策として以下を提案する。
１．　教員の仕事軸として「わくわくエンジン®」が発見できるように、「先生のおもしろい仕事人」プログラムを提供する。
２．　不登校対策として、町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」において、「やってみたい！をやってみる」のプログラムを実施する。モデル化について検証する。
・社会教育：地域において、地元企業や団体と協働して「やってみたい！をやってみる」取り組みを実施し、全国で普及できるように汎用性があるようにガイドラインを作成する。

1-1. 家庭教育

（文部科学省による定義：親やこれに準ずる人が子どもに対して行う教育。すべての教育の出発点であり、家庭は常に子どもの心のよりどころとなるもの）

■実績

◆プログラムを実施する学校の保護者に向けて、「わくわくエンジン®」のワークシートの読み解き方を伝えるアプローチを行なった。

・保護者向け・PTA 向け講演を各実施校に提案したり、地域における実施現場において親向けの理解を促した。

（さいたま市立植竹中、有明プロジェクト、町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」、殻をやぶれ！わくたまプロジェクト（KSP）、すぎなみ「わくわくエンジン®」発進プロジェクト等）

・保護者の理解を促進するために、ワークシートの読み解き方の説明資料や動画（スマホ用縦型／短時間）を制作。学校実施で家庭向けに配布するプログラムレターに、動画の QR コードを掲載した。

◆親子参加型プログラムの実施（対面開催/オンライン開催）

＜対面＞チーム東京@溝の口、チーム奈良@斑鳩市、チーム宮崎@宮崎市立本郷小 PTA 家庭教育学級、チーム大阪兵庫@大阪市、湘南地区会員@神奈川県二宮町

＜オンライン＞「オンラインですきなものビンゴ」

■効果/考察

◆学校でプログラムを受けた子どもが家庭に持ち帰ったワークシートを見て、保護者がその意味を理解することは困難なため、解釈の方法を伝える必要性を感じ、届くようにとせめてプログラム実施時に各家庭に配付するプログラムレターに録画説明の QR コードを掲載したが、どこまで効果があったかは追いにくい。今後は、保護者向けにオンラインでもよいので、関心をもってくれた方々に説明会のようなものを開催することが必要と感じた。親向け事業を行う会員のグループと実施プロジェクトとの連携ができると効果を発することができそうと感じた。

◆親が子どもの好きや夢中になるポイントを名詞的観点だけにとどまらず、動詞的観点で見る方法を学ぶ機会の創出強化の必要性を感じた。

◆親の意識や考えの転換や、親の悩みを解決するヒントになるような、親の学びのコミュニティの必要性を強く感じた。会員主体のグループで行えるよう、引き続き検討と実践を行っていくことができると感じた。

1-2. 学校教育

（文部科学省による定義：法律に定める学校：小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、大学、高等専門学校、盲学校、聾学校、養護学校、および幼稚園をいう）

■実績

【事務局実施】

◆不登校対策としての実践

町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」でプログラムを実施。

「おもしろい仕事人がやってくる！」、「すきなものビンゴ®」、「すきなものビンゴ＆お仕事マップ®」、「やってみたい！をやってみる」、シェア会まで、6 月末～翌年 1 月まで 7 日間にわたり取り組んだ。生徒約 10 名に対し約 10 名のわくわくナビゲーターがサポート。

個々の内面にある「わくわく（原動力）」を肯定することから始めて、失われかけていた自己肯定感・自己効力感を回復させ、「生きるエネルギー」を再始動させるきっかけとなった。保護者座談会の開催や保護者向けの動画説明、最後のシェア会への参加など、保護者を巻き込み成長を共にわかちあった。

◆川崎における学校教育モデル
・川崎市立久本小学校 6 年生（応援企業：株式会社エヌアセット／11 年目、株式会社シーエスデー研究所／4 年目、高津区の企業や地域の大人）
・川崎市立大戸小学校 6 年生（応援企業：ジェクト株式会社／4 年目）
・川崎市立川崎中学校 1 年生（応援企業：JFE エンジニアリング株式会社／3 年目）

◆横浜市立小田中学校（応援企業：JFE エンジニアリング株式会社／3 年目）

◆渋谷区立渋谷本町学園小学校 6 年生、渋谷区立代々木中学校 1 年生、羽村市立栄小学校 4-6 年生（応援企業：カシオ計算機株式会社／10 年目）
カシオ羽村技術センター近辺の羽村市立栄小学校で初開催

◆神奈川県立中央農業高等学校畜産科学科 1-2 年生（応援企業：JA 全農／5 年目）
・JA 全農「酪農の夢」コンクール　副賞として実施
・第一次産業の次世代育成、進路選択サポートに活用
・株式会社マドリン代表・女性酪農家による講演
・3-5 年目社員が研修を受けてプログラムに参加

◆有明わくわくプロジェクト 9 年目：江東区立有明小学校／有明西学園 6 年生
・地域学校協働本部との連携モデル
・9 年間で有明サポーターは延べ 222 名、プログラム経験した児童は 1,375 名に

◆その他
・横浜市立笹下中学校 1 年生
・寒川町立寒川東中学校 1 年生
・潮来市立延方小学校 6 年生

■効果/考察

◆町田市の学びの多様化学校での「やってみたい！応援」の価値は体感できたが、次年度はさらに効果的に体系立てて行うことを目指し、一人ひとりの内発的動機付けとしてわくわくエンジン発見から進めることで効果があることとを成功事例として社会に示していきたい。

◆5 年以上続くプロジェクトが複数でてきており、安定的かつ発展的に展開されている。

◆JA 全農のプロジェクトでは、専門性のある学びをする生徒たちを対象とすることで、具体的な未来への希望を見出しやすい。結果、酪農産業への支援にもつながっていることを分かりやすく示すことができると感じている。

1-3. 社会教育

（文部科学省による定義：学校の教育課程として行われる教育活動を除いたもの。主として、青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動）

■実績

◆地域における「やってみたい！をやってみる」のプログラムの実施
「わくわくエンジン®」からうまれた子どもたちの「やってみたい！」を応援するプログラムを川崎市内においてモデル

実施（2 年目）。誰でも実施しやすいように、運営ガイドラインが完成に近づいている。

① 募集型実施

・「殻をやぶれ！わくわくたまごプロジェクト」@かながわサイエンスパーク（KSP）
（企業協賛型、全 4 日間）
小中学生 11 名、わくたまサポーター20 名以上、保護者や見学者含め 20 名、最大 52 名参加。

・「わくわくエンジン®発進プロジェクト」
（杉並区次世代育成基金活用の助成事業、チーム東京実施、全 3 日間）
小中学生 15 名、高校生サポーター9 名、KP21 サポーター、保護者や見学者含め 62 名参加。

② 居場所型実施

・「西加瀬子ども文化センター」（かわさき市民活動センター管轄、企業協賛型）
小中学生 10 名、サポーター13 名参加

◆第三の居場所における実施

・進路サポートプログラム（個別対応）
学習支援・居場所づくり事業（川崎市委託事業：中原わくわく学習会・通称「なかわく」）
中学生 9 名、サポーター9 名参加

■効果/考察

◆「やってみたい！」ことを最後までやりきる経験や、大人に応援される経験は、未来の人づくりに有効である。

◆川崎市の西加瀬子ども文化センターの活動において、居場所の職員にとって日常の子どもたちとの関わりに活かせる研修として高い評価を得ることができた。

◆「やってみたい！をやってみる」のプログラムは、わくわくエンジン発見に留まらず、自分の未来を自分発で考え、実際に一歩踏み出して行う経験として、今の日本の教育において必要なサポートである。

◆子どもだけでなく、プログラムに参加してサポートした側の大人にとっても、自己の内省が進み、一歩踏み出すことの大切さに気付く機会となり、大人の学びとなっていた。

◆学習支援・居場所に通ってくる中学3年生にとって、進路選択をするにあたり、自分の「好き」や「わくわく」を起点に進路の方向性を見出していく経験は、「制服が可愛いから」「近いから」「偏差値ちょうどいいから」「親が言うから」などという進学先選択の基準以外の新たな自分の基準をもつ重要な経験となっている。また、普段、バスの時間の都合で早く帰る生徒が「今日は最後までやる」と言って、自分の未来を考えることに熱心になる様子からも有効であることがわかる。

1 -4. 地域チーム

■実績

	2025 年度活動報告
チーム北海道	・チームメンバーが主宰する団体で、代表理事朝山が講演を行い、共感者を増やした。 ・講演から講座への導線を設定し、わくわくナビゲーター養成講座を開催。新規メンバーが増えた。 ・札幌市内や千歳市内などの子ども食堂やフリースクールを展開している地域活動団体などとネットワークづくりを行なった。
チームにいがた	・2023 年から好評の教職員研修選択研修 3 講座を継続 ・若手 3 年目の悉皆研修を 2 日間に分け、開催。教員を元気にする目的で、研修

	内容は新潟市総合教育センターとの協働で 2 年近くをかけ、チームにいがた、事務局で開発。満足度 100%のアンケート結果を得た。 ・新潟市内小学校 4 校の継続校へ実施 ・新潟市立明鏡高校夜間部での実施は 5 年間継続 ・地域での信頼を重ね、教員の異動先でも希望されることが多いため、これまでの実施校との関係を継続しつつ、実施を調整している。
チーム北関東	・さいたま市立植竹中学校実施・保護者理解促進のための講演会と同時開催。10 クラスを 2 回転で行なうため、全国のわくわくナビゲーター32 名が集結した。 ・ANBEC（日伯経済文化協会）寺子屋で実施。子どもだけでなく、日頃子どもに学習を行なう社会人・学生ボランティアも参加し、自身の「わくわくエンジン®」発見を楽しめる時間となった。 ・実施前の思い出し会・練習会やリアルでの親睦会を開催し、チームメンバーが顔を合わせたり、交流する時間をできる限り多くとった。
チーム東京	・参加者募集型親子向け実施の継続 ・杉並区の助成金を得て、「わくわくエンジン®」から発動する「やってみたい！」を応援するプロジェクト（すぎなみ「わくわくエンジン®」発進プロジェクト　全 3 回）を実施 ・杉並区宮前中学校区地域教育連絡協議会主催の講演会にチームメンバーが登壇 ・足立区立渕江中学校と実施継続（2 年目）　会員による「おもしろい仕事人がやってくる」と別日での「すきなものビンゴ&お仕事マップ®」を実施 ・渋谷区立鉢山中学校実施 ・江戸川区立松江第二中学校で初実施。チームメンバーの子どもの学校での実施がようやく実現した。 ・新規実施現場を増大のため、プロジェクトマネージャーを増やしたい。
チーム湘南	活動休止中
チーム静岡	・菊川市市民協働センター（6 年目）・森町社会福祉協議会（5 年目）との協働でプログラムを実施。主催者からは、中高生の NPO 体験前に、「自分や自分の関心を知る」ということに価値を感じてもらっている。 ・地域コーディネーターとの連携により、富士市立元吉原小学校においても継続実施
チーム奈良	・地域活動団体の協力で募集型親子向け実施を行った。
チーム大阪兵庫	・保護者サポーターやパートナー「くさつ未来プロジェクト」と共に、私立関西大倉中学校実施（5 年目） ・株式会社高栄ホームの寄付や協賛により、大津市立富士見小学校において実施（４年目） ・神戸市内小学校 2 校実施 ・神戸市内小中学校で PTA や学校運営協議会主催の講演会にチームメンバーが登壇 ・大阪市内法人会員からのネットワークによるミニ講演会＆親子向け実施 ・チームメンバーが主催するイベントでブース出展した。 ・チームミーティングや練習会などリアルで会う機会を設けた。
チーム宮崎	・つながりのある自立訓練事業所で、メンバーの練習の機会として継続実施 ・宮崎市立本郷小 PTA 家庭教育学級で親子向け実施

	・宮崎市内にてわくわくナビゲーター養成講座を 9 月に開催 ・毎月リアルで、定例ミーティングを開催
チーム沖縄	・各地域施設へのアプローチを継続

■効果/考察

◆「企業の子ども応援プロジェクト」や地域サポーターを育成するモデル、「わくわくエンジン®」から始まる「やってみたい！をやってみる」プロジェクトが、各地域においても実践された。

◆学校だけでなく、チームメンバーが関わる居場所やフリースクール、地域施設など、実施場所が多様になり、より身近な場所で地域に根差して活動している様子が分かる。

◆チームメンバーが地元の PTA などで講演する機会も出てきたことで、キーパーソン 21 の理念や考え方が広がる機会が作れている。

◆全国各地の地域チームが、学校・PTA・行政・地域企業・地域団体等をつなぐ役割を果たすことの価値は大きい。

1-5. パートナー

■実績

2025 年度事業実施実績一覧表を参照

■効果/考察

◆認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト

・京都洛中ロータリークラブのメンバーが地域サポーターとなり、高校生にプログラムを実施した。

・滋賀県の社会福祉協議会による児童養護施設での実施が継続され、定着している。

・滋賀県多賀町において開催されたわくわくナビゲーター養成講座に、くさつ未来プロジェクトのメンバーが参加し、新たにわくわくナビゲーターとなり、地域間交流が促進された。

・草津市を飛び越え、滋賀県全域、京都等に活動が広がっている。

◆一般社団法人未来のわくわく研究所

・教員数名がわくわくナビゲーター養成講座を受講。初めての宇和島市内の中学校実施に繋がった。

・宇和島市から派生して、隣町の鬼北町でも中学校でのプログラム実施が実現した。

・茨城県潮来市立延方小学校の実施に 3 名が応援参加し、宇和島を知ってもらう機会となった。

【2025 年度事業実施実績一覧表】

区分	都道府県	対象団体名	対象	学年	児童生徒対象者数	大人受講者数	開催日時	プログラム名	協力/協賛/パートナー
事務局	神奈川	Solo-solo	-	-	1		4/4	Solo-solo	
事務局	東京	町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」	中学校	1-3	10		6/28	おもしろい仕事人がやってくる！プロジェクト説明会	
事務局	東京		中学校	1-3	9		7/11	すきなものビンゴ	
事務局	東京		中学校	1-3	9		9/20	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	東京		中学校	1-3	8		11/28	わくわくエンジン®～やってみたいを考える	
事務局	東京		中学校	1-3	9		12/5	やってみたい！の作戦会議	

事務局	東京		中学校	1-3	10		12/12	やってみたい！をやってみた	
事務局	東京		中学校	1-3	9		1/17	やってみた！シェア会	
事務局	東京	渋谷区立渋谷本町学園	小学校	6	113		7/15	おもしろい仕事人がやってくる！ わくわくエンジン®発見	カシオ計算機株式会社
事務局	神奈川	なかわく進路サポート プログラム	中学校	3	2		7/22	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	川崎市委託事業
事務局	神奈川		中学校	3	2		7/23	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	川崎市委託事業
事務局	神奈川		中学校	3	3		7/24	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	川崎市委託事業
事務局	神奈川		中学校	3	2		7/25	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	川崎市委託事業
事務局	神奈川	横浜市立小田中学校	中学校	1	128		9/9	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ＆お仕事マップ	JFE エンジニアリング株式会社
事務局	神奈川	川崎市立大戸小学校	小学校	6	100		9/16	おもしろい仕事人がやってくる！	ジェクト株式会社
事務局	神奈川	神奈川県中郡二宮町富士見が丘２丁目 子ども会	-	1,3,6	10		9/27	すきなものビンゴ（6 年生のみ ＋お仕事マップ）	
事務局	神奈川	川崎市立久本小学校	小学校	6	152		10/17	おもしろい仕事人がやってくる！	株式会社エヌアセットホールディングス/株式会社シーエスデー研究所
事務局	神奈川		小学校	6	153		10/24	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	株式会社エヌアセットホールディングス/株式会社シーエスデー研究所
事務局	神奈川	殻をやぶれ！わくわくたまごプロジェクト 2025	-	-	11		10/26	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ やってみたい！を考えよう	ｻﾝﾄﾘｰ/ｼｰｴｽﾃﾞｰ/ｴﾇｱｾｯﾄ/ｼﾞｪｸﾄ/大山組/HOTEL KSP/ﾊｰｹﾞﾝﾀﾞｯﾂ ｼﾞｬﾊﾟﾝ/川崎市教育委員会/かわさき FM
事務局	神奈川		-	-	9		11/3	やってみたい！の作戦会議	ｻﾝﾄﾘｰ/ｼｰｴｽﾃﾞｰ/ｴﾇｱｾｯﾄ/ｼﾞｪｸﾄ/大山組/HOTEL KSP/ﾊｰｹﾞﾝﾀﾞｯﾂ ｼﾞｬﾊﾟﾝ/川崎市教育委員会/かわさき FM
事務局	神奈川		-	-	9		11/16	やってみたい！をやってみる	ｻﾝﾄﾘｰ/ｼｰｴｽﾃﾞｰ/ｴﾇｱｾｯﾄ/ｼﾞｪｸﾄ/大山組/HOTEL KSP/ﾊｰｹﾞﾝﾀﾞｯﾂ ｼﾞｬﾊﾟﾝ/川崎市教育委員会/かわさき FM
事務局	神奈川		-	-	10		11/30	やってみたいをやってみた！の発表	ｻﾝﾄﾘｰ/ｼｰｴｽﾃﾞｰ/ｴﾇｱｾｯﾄ/ｼﾞｪｸﾄ/大山組/HOTEL KSP/ﾊｰｹﾞﾝﾀﾞｯﾂ ｼﾞｬﾊﾟﾝ/川崎市教育委員会/かわさき FM
事務局	神奈川	川崎市立川崎中学校	中学校	1	116		10/29	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ	JFE エンジニアリング株式会社
事務局	東京	渋谷区立代々木中学校	中学校	1	98		10/31	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ＆お仕事マップ	カシオ計算機株式会社
事務局	東京	有明西学園	小学校	6	167		11/14	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	東京	有明小学校	小学校	6	77		11/14	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	神奈川	横浜市立笹下中学校	中学校	1	208		12/2	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	神奈川	殻をやぶれ！わくわくたまごプロジェクト – 西加瀬子ども文化センター	-	-	10		12/26	すきなものビンゴ やってみたい！を考えよう	
事務局	神奈川	茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校	小学校	-	122		1/22	おもしろい仕事人がやってくる！	
事務局	茨城	潮来市立延方小学校	小学校	6	58		1/30	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	東京	羽村市立栄小学校	小学校	4-6	19		2/6	おもしろい仕事人がやってくる！	カシオ計算機株式会社

事務局	神奈川	神奈川県立中央農業高等学校	高校	1-2	75		2/10	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ＆お仕事マップ	JA 全農
事務局	神奈川	寒川町立寒川東中学校	中学校	1	129		2/12	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
事務局	徳島	NPO 法人べんざいてんのお家	-	-	11	12	3/21	講演＆すきなものビンゴ	
地域チーム	北海道	壮瞥町まちなか交流館ヴァロア	-	-	-	4	4/19	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	新潟市立大形小学校	小学校	6	132		5/12	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	光の森学園	-	-	4		7/7	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	新潟市立東中野山小学校	小学校	6	56		9/4	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟		小学校	6	54		9/9	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	新潟市立阿賀小学校	小学校	6	44		9/12	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	新潟市立横越小学校	小学校	6	95		10/30	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟	新潟県立明鏡高等学校	高校	1	20		2/18	すきなものビンゴ	
地域チーム	新潟		高校	1	23		2/25	すきなものビンゴ	
地域チーム	埼玉	さいたま市立植竹中学校	中学校	3	353		4/26	すきなものビンゴ＋保護者向け講演	
地域チーム	埼玉	ANBEC(日伯経済文化協会) 寺子屋	-	-	8	4	8/9	すきなものビンゴ	
地域チーム	東京	すぎなみ「わくわくエンジン®」発進プロジェクト	-	-	15		10/19	わくわくエンジン®発見 やってみたい！を考えよう	
地域チーム	東京		-	-	15		11/24	やってみたい！の作戦会議	
地域チーム	東京		-	-	11		12/14	やってみたいをやってみる！ やってみた！の発表	
地域チーム	東京	足立区立渕江中学校	中学校	1	145		11/28	おもしろい仕事人がやってくる！	
地域チーム	東京		中学校	1	138		12/8	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	東京	渋谷区立鉢山中学校	中学校	1	30		1/15	おもしろい仕事人がやってくる！ すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	東京	江戸川区立松江第二中学校	中学校	3	93		3/10	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	東京	U18 Education Park	-	-	36		3/29	すきなものビンゴ	
地域チーム	神奈川	わくわくエンジン®親子ワークショップ	-	-	12	9	7/21	すきなものビンゴ やってみたい！を考えよう	
地域チーム	静岡	富士市立元吉原小学校	小学校	6	35		7/11	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	静岡	中高生 NPO 体験セミナー事前学習会（菊川市市民協働センター主催）	-	-	46		7/19	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	静岡	森町社会福祉協議会主催・中高生ボランティア体験講座	-	-	23		8/16	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	

地域チーム	奈良	元気クラブいかるが 親子実施	-	-	5	1	8/2	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	大阪	関西大倉中学校	中学校	1	176		4/16	すきなものビンゴ	
地域チーム	大阪	大津市立富士見小学校	小学校	6	70		5/29	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	株式会社高栄ホーム
地域チーム	大阪	経営実践研究会メンバー発「すきなものから発見するわくわくエンジン®発見会」	-	-	6	15	1/24	すきなものビンゴ やってみたい！の作戦会議	
地域チーム	大阪	長田南小学校	小学校	6	41		2/19	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	兵庫	神戸市立五位の池小学校	小学校	6	37		12/8	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
地域チーム	宮崎	宮崎市立本郷小学校：家庭教育学級	小学校	4-6	14	12	7/28	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	
パートナー	滋賀	滋賀県社会福祉協議会	-	-	53		5/31	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	くさつ未来プロジェクト
パートナー	滋賀	栗東市立金勝小学校	小学校	6	53		6/24	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	くさつ未来プロジェクト
パートナー	京都	京都洛中ロータリークラブ	-	-	48	2	10/25	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	くさつ未来プロジェクト
パートナー	愛媛	宇和島市立吉田中学校	中学校	3	56		10/3	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	未来のわくわく研究所
パートナー	愛媛	愛媛県北宇和郡鬼北町立広見中学校	中学校	2	59		10/28	すきなものビンゴ＆お仕事マップ	未来のわくわく研究所
事務局	オンライン	オンラインですきなものビンゴ	-	-	13	6	通年	すきなものビンゴ	
合計					3878	65			

2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業

◆内容：キャリアプログラム開発及び品質管理事業
◆日時：「2025 年度わくわくナビゲーター養成講座 開催一覧表」P.16 参照
◆場所：同上
◆従業者人数：のべ 29 名
◆対象者：のべ 102 名
◆収益金額：￥2,726,500　費用金額：￥3,753,850

■25 年度のテーマ
プログラムのコモンズ化（公開）

■25 年度の目標
・プログラムの公開に向けて、学びの機会や意見交換の場を設けることからスタートする。
・講師養成（3 年間で 6 名育成）
・「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムのテキスト作成による汎用化

2-1. プログラム開発

■実績

◆プログラム公開に向けた準備
教員が自分のクラスで 1 人でもプログラムを実施できる、教員向けパッケージの開発を進めた。

◆プログラム「おもしろい仕事人がやってくる！」のテキスト作成による汎用化
会員が「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムを実施できるように準備した。

◆「やってみたい！をやってみる」のプログラムが、全国どこにでもある地域の居場所で展開できるモデルをつくる。
全国どこでも、誰でも実施できるようにガイドラインの作成を進めた。

◆不登校対策としてのプログラムの開発を行った。
町田市立山崎中学校学びの多様化学校分教室「ゆめのき」において、教員・保護者と共に進めるプログラムとした。

◆オンラインとリアル対面で行う 14 日間の講師養成の仕組みを整え、テキストを更新した。

■効果/考察

◆教員が使うための教材が、教員たち自身によって開発されることで、現場に即した教材になっていると考える。教員とトライアルでモデル実施することに挑戦しながらブラッシュアップしていくプロセスまできている。次なるステップは、オモロー授業発表会などとの連携によりモニター実施して、可能性を広げていきたい。

◆「お仕事マップ」が自分と社会を繋げて、今の自分と未来を考えるために必要なプロセスだと分かった。
「好きなもの、好きなこと」から「わくわくエンジン®」を発見する場合と、「わくわくするお仕事」から「わくわくエンジン®」を発見する場合で、「わくわくエンジン®」の言語化により、社会を見る目が異なることが分かった。専門家と共に研究ができると良いと思う。

◆不登校といわれる子どもたちにとって、「わくわくエンジン®」が生きるための大切な土台となることが分かった。

2-2. 認定委員会

■実績

◆認定委員会の開催（2 回）
・第 24 回認定委員会
わくわくナビゲーター1 級：1 名認定
・第 25 回認定委員会
わくわくナビゲーター1 級： 1 名認定、1 名仮認定
講師： 3 名認定（1 級わくわくナビゲーター3 名が、全 14 回の講師講座を受講し、講師に認定）

◆1 級認定のためのフィードバック担当者として、講師が担当できるようにした

■効果/考察

◆関西方面在住の講師が 3 名誕生したことで、西日本でのわくわくナビゲーター養成講座開催の機会が増えることが期待できる。

◆プログラムの意味や価値を深く理解する講師の誕生が、普及への大きな力となる。

2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座・研修

■実績

【2025 年度わくわくナビゲーター養成講座 開催一覧表】

開催都市		開催日	講座内容		参加人数	開催場所	
北海道	159 回	4 月 28 日	体験・引き出し	体験	4	札幌市東区民センター	
				引き出し	4		
		4 月 29 日	メイン	メイン	2		
宮崎	160 回	9 月 20 日	体験・引き出し	体験	5	マンゴーホテル	
				引き出い	5		
		9 月 21 日	メイン	メイン	4		
川崎	161 回	9 月 27 日	体験・引き出し	体験	8	中原市民館	
				引き出し	7		
		9 月 28 日	メイン	メイン	5	高津市民館	
枚方	162 回	2 月 4 日	体験・引き出し	体験	9	枚方市総合文化芸術センター別館	
				引き出し	9		
		2 月 5 日	メイン	メイン	8		
川崎	163 回	2 月 14 日	体験・引き出し	体験	3	平和館	
				引き出し	3		
		2 月 15 日	メイン	メイン	2		
滋賀	164 回	3 月 13 日	体験・引き出し	体験	9	多賀結いの森	
				引き出い	10		
		3 月 14 日	メイン	メイン	5		
延べ参加数					**102**		
新規わくわくナビゲーター ビンゴ＆マップ				4 級	1	累計	4
				3 級	17	累計	119
				2 級	26	累計	250

■効果/考察

◆全国で養成講座開催が広がる。北海道、宮崎、大阪、滋賀で開催し、地域活動の充実につながった。

◆宮崎での開催は昨年に引き続き 2 回目。地域チームでメイン・アシスタントを担当できる人が多数育成された。

2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成

■実績

◆講師育成テキストを改訂しながら、関西地域の大阪府、滋賀県、兵庫県の 1 級取得している会員 3 名を講師育成した。

■効果/考察

◆講師養成講座をオンラインや関西出張と合わせて行うなど工夫した。

◆今後は、この 3 名が関西方面での講師の役割を担当することで、活動の幅が大きくなる見込み。

◆講師育成とテキスト改訂をすることで、わくわくナビゲーター養成講座の内容に以下の 6 つを盛り込むことが大切だと認識した。
・引き出しがしっかりできるようになること
・「わくわくエンジン®」から生まれる「やってみたい！」までを引き出せるようになること
・わくわくナビゲーターが個人パートナーとして一人でもプログラムを出来るようになること
・「わくわくエンジン®」をどう活用したらよいかをイメージできるようになること
・わくわくナビゲーターが、学んだことが自身の日常生活に落とし込めるようになること
・わくわくナビゲーター同士のつながり感や仲間感を持てること

2-5. 個人パートナーの仕組みづくり

■実績
◆個人会員が地域で一人であったとしても活躍できるプログラムとして仕組みを開発
・個人でプログラム実施できる資格「わくナビ（個人）パートナー」の概念整理を行い、ガイドラインなどの整備を行った。
・学校や人数の多い居場所などにおける実施だけでなく、個人でのプログラム実施もできるよう、わくわくナビゲーター養成講座の内容や項目の整理を行った。
・個人がオンラインでプログラム実施できる資格「オンラインわくナビパートナー（オンライン個人パートナー）」は、「オンラインわくナビ育成コース」修了者が「オンラインわくナビパートナー」になるための仕組みを整えた。

■効果/考察
◆近くに仲間がいなくても、学校などの大掛かりな実施でなくても、一人で手軽に実施することができるため、プログラム実施のハードルが大きく下がる。
◆プログラム実施のハードルが下がることで、会員の活動の場が広がり、個人での実施に関する会員間の意見交換や情報共有などが活発になることが期待できる。
◆会員でない一般の方がプログラムを受講できる場が増えるため、飛躍的なプログラムの普及拡大が見込まれる。
◆個人の商業利用が可能になるため、プログラムを提供したい人が増えることも期待でき、さらなるプログラムの普及拡大が見込まれる。

3．子ども・若者の居場所づくり事業

◆内容：子ども・若者の居場所づくり事業
◆日時：通年
◆場所：中原区内 2 か所（中原わくわく学習会「通称なかわく」：川崎市委託事業）
中原区内 1 か所（小杉わくわく学習会「通称こすわく」：自主事業）
中原区内 1 か所　今井小学校（寺子屋今井：川崎市委託事業）
◆従業者数：のべ 2,098 名
[1,951 名（なかわく）、130 名（こすわく）、17 名（寺子屋）]

◆対象者：のべ 2,988 名
[2,651 名（なかわく）、140 名（こすわく）、197 名（寺子屋）]
◆収益金額：￥21,658,657 費用金額：￥20,094,966

■25 年度のテーマ
学校外の学びの場において、「わくわくエンジン®」をベースに子どもが自分軸をもって進路選択する力をつける。

■25 年度の目標
学習に限らず、就労支援の一環として地域の循環を促進する。

3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会・通称「なかわく」）（川崎市委託事業）

2025 年度 中原わくわく学習会 ― 新城教室 ― 実績

中原"わくわく"学習会 (通称:なかわく) 新城教室	【開室期間】 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日 【実施場所】 新城いこいの家（新城地区） 【実施時間】 中学生：18 時 30 分から 20 時 30 分（1 回あたり 2 時間） 小学生：17 時 00 分から 18 時 00 分（1 回あたり 1 時間） 【開催日数】 中学生：91 日（水・金）、小学生：47 日（金） Zoom 学習を年間 188 回実施（1 回あたり 2 時間）
支援体制（期末）	事業統括責任者：1 名、学習コーディネーター：3 名、学習支援専門員：1 名 学習サポーター：26 名（学生：14 名、社会人：12 名、スタッフ含む）
登録生徒の状況	＜中学生＞ 25 名（3 年：10 名 2 年：10 名 1 年：5 名） ＜小学生＞ 17 名（6 年：7 名 5 年：7 名 4 年：2 名 3 年：1 名）
進学先	公立全日制： 4 名、私立全日制： 4 名（※欠席していた生徒は含まない）

2025 年度 中原わくわく学習会 ― 小杉教室（サン・ライヴ）― 実績

中原"わくわく"学習会 (通称:なかわく) 小杉教室 （サン・ライヴ）	【開室期間】 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日 【実施場所】 サン・ライヴ（小杉地区） 【実施時間】 中学生：18 時 30 分から 20 時 30 分（1 回あたり 2 時間） 小学生：17 時 00 分から 18 時 00 分（1 回あたり 1 時間） 【開催日数】 中学生：93 日（水・金）、小学生：46 日（金） Zoom 学習を年間 193 回実施（1 回あたり 2 時間）
支援体制（期末）	事業統括責任者： 1 名、学習コーディネーター：3 名、学習支援専門員： 1 名 学習サポーター：22 名（学生：13 名、社会人：9 名、スタッフ含む）
登録生徒の状況	＜中学生＞ 17 名（3 年：6 名 2 年：6 名 1 年：5 名） ＜小学生＞ 6 名（6 年：3 名 5 年：1 名 4 年：1 名 3 年：1 名）
進学先	公立全日制： 5 名（※欠席していた生徒は含まない）

■実績
◆「学習支援・居場所づくり事業」として川崎市より「中原わくわく学習会」を受託・継続した。（3 年間）
◆2025 年度の中学 3 年生は全員第一志望の高校へ合格した。
◆学校には通わない不登校の子どもが、来室が継続的になった事例が新城教室において複数名おり、

信頼関係を育める居場所の提供が実現できている。

◆本学習会を卒業後、大学進学を果たした「学習サポーター」が活躍している。また、高校卒業後も様々な問題を抱えている卒業生に対して、慣れ親しんだ心理的安全が確保された場において、社会に出た時に役立つよう、就労支援の場として支援を継続、地域において教育の機能と居場所の機能に就労支援機能を加えた形での支援となっている。

◆補食を希望する中学生に対し、おやつ以外に補食を提供した。希望者は増え続けており、学習会に通う一つの励みにもなっている。

■効果/考察

◆「学ぶ」の習慣獲得のため、「基本的な学力」の土台作りは日々の学習において、「基本的信頼感」は居場所をはじめとするサポーターとの関わりの中で構築されると捉え、「興味関心」や「好奇心」などの土台は各種イベントで子ども達へ種まきが出来ると考え、様々な取組みを限られた時間内で行った。これら３つが上手く機能し、インクルーシブな場として、相乗効果も得られたと感じている。

3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会・通称「こすわく」）（自主事業@川崎市）

2025 年度 小杉わくわく学習会「通称こすわく」実績

実施内容	学習教育：週 1 回　不得意科目克服、学校での成績アップ 不登校者対応教室：週 2 回　不登校のこどもの事情に合わせ面談及び Zoom によるマンツーマン教育を実施		
参加者の年代	中 2～高 3	定員	通常学習 5 人 不登校対応 2 人
実施頻度	学習教室：週 1 回 不登校学習：週 2 回	活動日数 （年間）	127 日／年間 学習教室：46 日 不登校学習：81 日
スタッフ体制	学習：専任講師 1 名 不登校：専任講師 1 名		

■実績

◆「小杉わくわく学習会」を維持継続した（2015 年開室より 11 年）

・主に進学希望の高校生を対象に運営した。

・個別対応が必要な不登校生にはマンツーマンで対応。

・運営資金は、毎年多くの皆さまからのマンスリー寄付と、川崎市青少年支援室からの不登校対策の助成金をいただくことで運営しているが、2025 年度は一般社団法人 MDRT 日本会より二度にわたるご支援をいただいた。

■効果/考察

◆高校３年生は全員が進学を果たした。

◆不登校で休みがちな生徒は個別対応であっても、来室するかしないかは、当日の間際までわからず、学習支援者が根気よく待つ努力が必要な状況は変わらずある。

◆全く学校に足が向かない子どもへは本人のペースを大切に、無理のない学習支援を行ってきたが、学習に対

するモチベーションを保ち続けることの困難さから、学習の後に毎回、理科実験を取り入れ、一人ひとりの興味関心がある分野の実験を行なった。まだまだ受け身の状態で、本人たちが自ら探求して行くところまでは到達していないが、教室への来室を誘発する取り組みにはなっていると感じている。

3-3. 寺子屋（川崎市委託事業）

2025 年度 寺子屋 実績

6/7 (土) 参加者：子ども 23 名 大人 17 名	① 「パタパタ飛行機をとばしてみたい子あつまれ！！」 地域のシニアの方に講師になっていただき、親子で協力しながらパタパタ飛行機を作成して最後にみんなで飛ばしっこをして、体育館いっぱいにパタパタ飛行機を飛ばした。
9/27 (土) 参加者：子ども 8 名 大人 7 名	② 「けん玉を習ってやってみたい子あつまれ！！」 多摩区在住のけん玉道五段の方に講師に、けん玉の技を教わり、希望者はけん玉級認定試験に挑戦した。
11/29 (土) 参加者：子ども 14 名 大人 8 名	③ 「ギャグ王決定戦！一発ギャグ＆大阪弁まんざいをやってみたい子あつまれ！！」 中原区在住の国際夫婦漫才コンビの方を講師に、漫笑いをとるコツを教わり、親子や友達とコンビになって、実際に漫才を体験した。子どもたちの名漫才コンビがたくさん誕生した。
12/20 (土) 参加者：子ども 59 名 大人見学者多数	④ 「はじめてでも大丈夫！川崎ブレイブサンダースとバスケしてみたい子あつまれ！！」 地元川崎のプロバスケットチーム「川崎ブレイブサンダース」のアカデミーコーチからバスケットの基本的な技術を楽しく教わった。バスケットをするのは初めての子も多数参加し、新しいスポーツに出会うきっかけとなっていた。
1/24 (土) 参加者：子ども 21 名 大人 20 名	⑤ 「マイナス 35 度ってどんな感じ？？寺子屋で大人気のプログラム『南極クラス』に参加したい子あつまれ！！」 南極観測隊の居住棟を南極に建て、毎年南極観測隊に社員を派遣しているミサワホームによるプログラム。南極観測隊経験者から南極での生活を詳しく聴き、南極で使う防寒着を試着したり、機械を使ってブリザードを体験した。最後の質疑応答では予定時間を大幅にオーバーするほどのたくさんの質問が子どもからも大人からも出ていた。
2/14 (土) 参加者：子ども 11 名 大人 9 名	⑥ 「宇宙ダンス♪で☆今井星人☆になっちゃいたい子あつまれ！！」 インクルーシブダンスチームを率いるダンスインストラクター、ダンサー、そして振付師である講師から、ちょっとユーモアな振付の「宇宙ダンス♪」を教わった後、各自で簡単な衣装を手づくりし、最後はみんなで舞台にのって楽しく踊り一年間の寺子屋体験プログラムを締めくくった。

■実績

◆川崎市からの委託事業「寺子屋今井」の体験活動を継続した。（年間参加者延べ人数：197 名）

■効果/考察

◆普段の学校生活では体験できないようなことを地域の大人たちから教わり一緒に活動することで、子どもたちの視野を広げることに貢献できた。また、親子での活動では、親は子の、子は親の、それぞれ知らなかった一面に気づく貴重な時間になっていた。

◆寺子屋事業は、本年度をもって終了となります。

3-4. 不登校対策の居場所づくりの検討

■実績
◆委託側の不登校対策の方針変更のため、実施に至らなかった。

４． 教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業

◆内容：教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
◆日時：「2025 年度 講演/セミナー/研修実績」P.21-22 参照
◆従業者人数：のべ 79 名
◆対象者：のべ 745 名
◆収益金額：￥689,898　費用金額：￥1,644,266

■25 年度のテーマ
多様な企業や団体、有識者などとの協働により、普及と創発につなげる。

■25 年度の目標
・情熱や意欲に関する研究者、専門家と意見交換を行う。
・PTA や教員向け、企業人向けなど、講演活動を増やす施策を打つ。

4-1. 講演/セミナー/研修

2025 年度 講演/セミナー/研修実績

年月日	タイトル	主催	受講人数
2025/4/26	子どもの可能性を拓く進路選択とは ～やる気を引き出す関わり方～	さいたま市立植竹中学校	19
2025/4/27	わくわくエンジン®から考える自分らしさ	the WELL-BEING CLUB	20
2025/6/19	若手 6 年目研修リハーサル 「自分軸発見」模擬抗議	新潟市教育委員会	20
2025/6/30	キャリアパスポート ～学びと育ちの理解を促す対話の工夫～	新潟市教育委員会	10
2025/7/16	わくわくエンジン®発見講座	新潟市教育委員会	36
2025/7/17	教師としての自分軸発見講座	新潟市教育委員会	24
2025/10/9	子どもの可能性を最大限に　～自分らしさの見つけ方～	阪南市小学校教育研究会 生活・総合部会	15
2025/11/2	探求×ビジネスマッチング＝イノベーションの種	川崎市カラーズフューチャー サミット	50

2025/11/21	驚きを身近にする力で、ひとりひとりに今日を超える歓びを。 互いのわくわくする原動力を知り認め合うコミュニケーション	カシオ計算機株式会社	75
2026/1/15	自分らしさ発見研修 ～わくわくする自分から始まる教員力～	新潟市教員研修	65
2026/1/16	自分らしさ発見研修 ～わくわくする自分から始まる教員力～	新潟市教員研修	65
2026/1/23	子どものやる気のエンジンのかけ方 ～子どもの可能性を最大限に～	一般社団法人　L Create	20
2026/1/31	非認知能力をのばす ～子どものやる気のエンジンのかけ方～	相模原市 PTA 連絡協議会 相陽・田名・上溝南ブロック	50
2026/3/5	子どものやる気を引き出すために ～子どものわくわくエンジン®をさがそう～	神戸市立五位の池小学校学校運営協議会	30
2026/3/8	自分のわくわくエンジン®を見つけよう	相模原市立上溝南中学校 （3 年生）	200
2026/3/21	子どものやる気のエンジンのかけ方 ～子どもの可能性を最大限に～	NPO 法人べんざいてんのお家	講演 11 親子体験 大人 12 子ども 11
2026/3/22	子どものやる気とわくわくエンジン®の見つけ方 ～子どもの可能性を最大限に～	神戸市魚崎中学校 PTA	12

■実績

＜保護者・PTA 向け講演＞

◆我が子の進路や将来に不安を感じている保護者を対象に、子どもとの関り方や進路選択の軸を見つけることを狙いとした講演を行った。

・相模原市 PTA 連絡協議会　相陽・田名・上溝南ブロック
保護者に限らず、教員や地域の方々が集まり、子どもの非認知能力をのばす方法として「わくわくエンジン®」について考えた。

・フリースクール べんざいてんのお家主催（徳島県阿南市）
親子や地域の方々が集まり、子どもの可能性を最大限にすることについて共に考えた。

◆2026 年度に向けて全国の PTA に案内を協議会などの情報網を活用して発信した。

＜教員向け研修＞

◆新潟市教育委員会主催教員研修（希望選択研修 3 講座、必修若手 3 年目研修）
教員が教員としての自分軸を発見できることを狙いとして行い、アンケート回答は満足度 100%を得た。

◆学校におけるプログラム実施の前には、学校のカリキュラムにおいてどうプログラムを活用し位置づけるかを教員が考えやすくなるように、教員向けにオリエンテーションを行なうことを徹底している。

＜企業向け研修＞

◆カシオ計算機株式会社の CSR 担当社員の要望を受け、ブランドコミュニケーション本部 75 名に部門内社員研修を開催。自身の原点「わくわくエンジン®」を知り、行動を後押ししてもらうことで、仕事のみならず人

生を豊かにするきっかけとした。
◆学校におけるプログラム実施の前には、企業の子ども応援プロジェクトで協力くださる企業の社員に事前研修を必ず行っている。

■効果/考察
◆我が子の進路や将来に不安を感じている保護者を対象に講演を行なうことの意義とニーズがあることがわかった。更には、講演によって親としての子どもへの関わり方に共感納得するも、数カ月経つと忘れてしまうというお悩み相談を受けた。講演後の行動の持続性へのフォローが必要だとわかり、親向けフォロー活動が会員主体で始まった。日常に落とし込んでもらうための対策として、会員の保護者から質問項目を集め、代表朝山のメッセージとして考え方を Instagram に投稿し始めた。親向けコミュニティの立ち上げについても議論を始めている。
◆新潟市教員研修は満足度 100%であった。教員はこれまで「指示する」あるいは「自身が指示される」仕事の仕方をしてきたが、自分の「わくわくエンジン®」発で、自分で考え行動することの意味を理解し、教育現場において自分を活かすことができることがわかり、深い満足度となったと考える。新潟市教育委員会と共同開発している意義は大きい。全国の教育委員会においても、教員が離職する、教員のなり手がいない、など同様の課題を抱えており、教員としての自分軸を発見する研修は、全国において求められていると思われる。一人でも多くの教員の助けとなるよう、他都市への展開について検討を加速させたい。
◆従来、教員研修は教員 OB や大学教授などによる講師が行うことが殆どであったが、NPO が 4 講座を担当することは社会における教育協働において意義深い。
◆企業研修や教員研修における研修の狙いに対して、受講者が研修後に実際にアクションをして効果があったかどうかの検証には至っていない。研修の主催者側の担当者へのフォロー、あるいは複数回構成での提案や、後日受講者同士で確認し合えるような研修の構成を整えることが大切と感じた。

4-2. 企業や地域のネットワークづくり

■実績
＜関西地区におけるネットワークの広がり＞
◆経営実践研究会のメンバーのお声かけにより、大阪府、京都府、滋賀県周辺の関心ある方々が京都に集まり共感を得た結果、大阪府枚方市と滋賀県多賀町の 2 つの地域でわくわくナビゲーター養成講座の開催に繋がった。チーム大阪兵庫の多大なサポートがあった。
・枚方市で講演会開催
・わくわくナビゲーター養成講座開催@大阪府枚方市
・チーム北大阪が発足
・わくわくナビゲーター養成講座開催@滋賀県多賀町
講座を通じて、会員および受講者相互の交流機会がうまれ、ネットワークが広がり深まった。
滋賀県日野町の会員関係者や、パートナー「くさつ未来プロジェクト」のメンバー等も参加し、関西地域の輪が広がった。
・経営実践研究会のメンバー且つキーパーソン 21 の会員の取り計らいにより、経営者を対象に、親子体験プログラム&意見交換会を開催した。（チーム大阪兵庫主催）
・経営実践研究会のメンバーの紹介で亀岡市市長と面談。亀岡市の街づくりに貢献できる旨お伝えした。

・オルタナティブスクールの先駆者「ラーンネット グローバル スクール」をチーム大阪兵庫のメンバーと共に訪問した。

＜行政、有識者、教育改革を進める人々とのネットワーク＞

◆青森県知事参与であり、オルタナティブスクール「インフィニティ国際学院」の経営者と出会い、共感を得た。新潟市教育委員会主催の教員研修に、青森県教育長次長、広報担当、研修担当の 4 名で視察くださった。

◆小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授と出会い、今後の企業による NPO への支援の傾向など、社会貢献の動きをヒアリングした。更に、川崎市の企業をご紹介いただいた。

◆経済界の方々が先導する「教育改革国民運動」に参加した。

◆神奈川県政策局の紹介により、横浜国大の「情熱や意欲」に関する研究者と面談し相談した。

◆その他多数、出会った方の数は 200 名を超える。

＜川崎市内でのネットワーク＞

◆川崎市内において、「わくわくエンジン®」から「やってみたい！」を地域で応援するプロジェクト「殻をやぶれ！わくわくたまごプロジェクト」の開催にあたり、24 年度の応援団体（協賛 4 社、寄付 1 社、後援 2 団体）が、25 年度開催にあたっても継続くださった。

◆地元協賛企業の社長がプロジェクトの趣旨に共感し、ご自身のご家族が地域サポーターとして参加した。

◆株式会社シーエスデー研究所ご紹介の川崎市高津区の企業より、川崎高津ロータリークラブでの講演につながった。

◆川崎市教育委員会からの紹介により、幸高校のビジネス教養科とつながり、2026 年度 1 年間をかけて「わくわくエンジンから始まるイノベーション人材の育成」のプログラムの試行が始まることとなった。

◆川崎市生涯学習財団とのネットワークにより、2026 年度麻生市民館が主催するセミナーにおいて、大人向けに「わくわくエンジンから踏み出す一歩のプログラム」を 5 回シリーズで開催することとなった。

＜非営利活動団体等とのネットワーク＞

◆パートナー「くさつ未来プロジェクト」のご縁から、徳島県阿南市において「べんざいてんのお家」主催による講演＆プログラム体験会が実現した。

◆杉並プロジェクトでサポーターをした高校生が、高校生が今と未来を考えるにあたり「わくわくエンジン®」発見が必要なものと感じ、自らが主催するイベント（U18 エデュパ）でプログラムを導入した。高校生自身が「わくわくエンジン®」の必要性を感じている事例は、他の高校生からの問い合わせにもつながっている。

＜寄付につながったネットワーク＞

◆25 年度から始まった神奈川県の「NPO 応援ふるさと納税企業版」のしくみを活用し、企業からご寄付いただけるように整えた。結果、三浦製材株式会社よる企業版ふるさと納税第一号につながった。

◆株式会社シーエスデー研究所のご紹介により以前に繋がっていた個人より、大口の個人寄付のお申し出をいただいた。

■効果/考察

◆ネットワーク構築により、知ってもらうことの大切さを強く感じている。未来を創造する仲間をつくるためには重要な施策である。日本の教育に熱心に取り組む方々との出会いをつくることによって、連携しながら進むこと

のできる教育協働が起き、次なる展開がうまれていく。

◆経営実践研究会に入会したことで多くの経営者と知り合い共感し合うことで新たなアクションが生まれた。特に関西地域での活動の活発化は顕著。

◆ネットワーキングにより出会い共感してくださった方が、わくわくナビゲーター講座受講後に次のアクションに繋がるように、受講後の活動イメージを持ってもらうような養成講座の構成の見直しが必要であると感じた。

◆日本の教育改革に熱心な専門家や経済界の方々、先進的な教育活動をされている方々と繋がることで、社会全体として動きが見えやすくなる。「内発的動機付け」の必要性が叫ばれており、どう国に提案提言していくか、会員の知恵や経験を活かして進めていきたい。

4-3. 広報

■実績

◆アンドパブリック株式会社とともにビジョンマップを制作し、HP や講演・イベント時に掲示・配布した。

◆広報人材サービス「ココモンズ」の人材を 3 月より登用、2026 年度に広報戦略～実働強化を図ることになった。「ステークホルダー」「寄付者」のペルソナ（典型的な人物像）を作成し、寄付の拡充等、今後の広報戦略の羅針盤を設けた。

◆Web サイトリニューアルについて検討し、完全リニューアルではなく、機能単位で必要な部分を小さく改修する（アジャイル型）方針とした。

◆保護者に向けて理解を促進するため、視聴者が短時間で見れる SNS として Instagram を展開した。

◆coki（法人のサステナビリティ情報を紹介する WEB メディア）を通じて、教育の改革や社会貢献活動に関心のある企業にむけた記事の作成と発信を行い、サントリーホールディングス株式会社からの出向者の活躍、JA 全農、カシオ計算機株式会社との協働事業を記事化した。

◆設立 25 周年を記念して JAMMIN（チャリティ専門ファッションブランド）とコラボ企画した。JAMMIN の HP に代表の想いを伝える記事を掲載、キーパーソン 21 をイメージしたデザイングッズを会員や支援者が購入し、活動時に着用することで仲間感の醸成が育まれた。売り上げの一部はキーパーソン 21 に寄付された（14.6 万円）。

■効果/考察

◆広報人材サービス「ココモンズ」の専門性を借りて、2026 年度の広報活動の促進を図りたい。

◆ウェブサイトに関しては、現状は、学校への出前授業を提供する団体として印象付けられてしまうが、親・家庭、先生・学校、地域、企業、行政らと教育協働している団体としての見え方になるように改善したい。

5. その他目的達成に必要な事業

特になし

【管理部門】

1．会員活動推進

■25 年度のテーマ
発想力豊かで伸びやかな活動へ

■25 年度の目標
・発想力豊かで伸びやかな活動を推進する
・会員の交流を促進しエンゲージメントを高める
・会員一人ひとりの思いや「やりたい」を活動へ繋げる

■実績

＜会員による発想力豊かで伸びやかな活動の推進＞

◆テーマ活動の推進

会員からのアイディアで、二つの会員主体の活動グループが発足した。

① 親向けの応援グループ：子どもとの関わり方を講演などで学ぶと、暫くは実践できるが、時間が経つと忘れてしまうので、日常に落とし込めるようにすることが目的

② 教員向け教材パッケージ製作のグループ：先生が教員研修などでプログラムを知り、自分のクラスで「やりたい！」と思った時にできるように、教材パッケージを提供することが目的
（キーパーソン 21 の会員の教員たちで構成。トライアル実施した。）

◆個人会員の活動推進

・個人会員が一人でも活動できる仕組みをつくり、2026 年度より本格始動できる見込みとなった。
・地域の子どもたちのみならず、大人に対してもプログラムを行うことができるようにした。
・2024 年度に実施した個人パートナーについてのアンケートを参考に進めた。

＜会員交流促進によるエンゲージメント向上＞

◆「キーパーソン 21 の日」の開催（毎月 21 日）

・会員の活動の参考になるテーマや、学びとなるようなコンテンツを企画した。
・新入会員の紹介を継続して行った。

2025 年度「キーパーソン 21 の日！」開催一覧

日程	内容
4 月 21 日	「学校と連携してわかったこと」 ～川崎での取り組みから得た視点～
5 月 21 日	「アドラー心理学とわくわくエンジン®」 ゲスト：心理学講師　大倉智美さん
7 月 21 日	「わくわくエンジン®と次世代育成 」 ゲスト：JA 全農＆カシオ計算機事例

8 月 21 日	「神奈川県ふるさと納税について」 ゲスト：神奈川県政策局職員
9 月 21 日	「子どもの権利とわくわくエンジン®」 ゲスト：川崎市職員　圓谷雪絵さん
10 月 21 日	「キャリア教育のこれまでとこれから」 ゲスト：法政大学キャリアデザイン学部　児美川孝一郎教授
11 月 21 日	「一人ひとりが輝く will-being® な社会」へ向けて ～ビジョンマップ完成の舞台裏と、そこに込めた想い～
12 月 10 日	「㊗25 周年キーパーソン 21 おめでとうの会」
1 月 21 日	「キーパーソン 21 の日をもっとわくわくの場へ」 ～参加者によるアイデア出し会～
2 月 21 日	「わくたまがこんなに広まりました！」 ～2 年目の報告～
3 月 21 日	「これからの NPO と企業の未来について語る」 ～サントリー ⇒ キーパーソン 21　出向 2 年間の総括（成果と課題）～

◆会員同士がもっと知り合う機会を増やすために、「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムを活用し、オンラインで交流したいという声が上がった。
◆全国会員がオンライン上で交流や情報交換のできる、透明性の高い場としての Discord の使用を継続し、情報共有や活動の活性化を図り、164 名が登録中。
◆第 3 回全国会員交流会を茨城県潮来市延方小学校での実施に重ねて開催し、会員 13 名が集まった。

■効果/考察
◆会員主体の活動を 2 つスタートできたことは会員組織の方向性としてその価値は大きい。
今後も会員の発想や声を吸い上げ、会員が主体となって活動しやすいようにすることが重要であり、NPO の発展に欠かせない。
◆会員が自らの「やってみたい！」を実現していくことは、会員組織である当 NPO の理念を体現する大切な要素である。
◆「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムを活用して会員交流をはかろうとする声もあがり、会員主体の活動が加速すると思われる。

2．組織基盤

■25 年度のテーマ
目指す社会を実現するために、会員が活動しやすい組織基盤を整える。
感謝と応援のコミュニケーションを増やし、一人ひとりがやりがいを実感する NPO になる。

■25 年度の目標
・制度やルールのスムーズな運用により、活動が進めやすくなることを目指す。
・事務局スタッフの Well-Being/Will-Being の向上

2-1. 総務

■実績
◆既にある規約やスターターセットの更新を検討したが、改訂までは行っていない。

■効果/考察
◆定款や規約の変更の必要性が発生するような課題はなかった。

2-2. 人事・労務

■実績
◆採用（業務委託）
経理、地域サポート、わくたまスタッフ、広報（インスタ業務）、事務スタッフを増員した。
◆予算立案・業務配分の仕組みを活動の変化に合わせて再整備
・25 年度人件費は 24 年度実績の工数に基づき見積もりで執行管理した。
・毎月の人件費支出計画に基づき、予算と実績の確認を行った。大きな差異は発生しなかった。
◆サントリーホールディングス株式会社より出向者 1 名を 2 年間受け入れた。
◆勤怠管理の集計方法を改善した。

■効果/考察
◆スタッフの給与等の支出と収入のバランスが崩れている。収入に関しては課題がある。

2-3. 財務・経理

■実績
◆神奈川県の企業版ふるさと納税を導入した。
神奈川県へ寄付金額（125. 9 万円）、申請可能額（91.1 万円）
◆寄付のプラットフォームを調査・登録した。
・Readyfor の遺贈寄付に登録
・会員のネットワークにより Benevity に登録し、寄付を受領（23.7 万円）
・チャリティ T シャツによる寄付活動（14.6 万円）
◆過去の寄付募集活動の結果、遺贈寄付を受領した。（100 万円）
◆会員のネットワークにより、一般社団法人 MDRT 日本会から助成を受けた。（30 万円）
◆予算と実績の月次管理の質を向上した。
◆経理業務の外注化を進めた。

■効果/考察
◆月度単位の収入と支出の実績確認を丁寧に行い、翌月精算の徹底することによって、事業損益の把握がしやすくなった。

3．事業戦略

■実績

＜プログラムのコモンズ化＞

◆ビジョンマップを用いた議論から「プログラムの意図を汲んで動ける大人」が重要であると定義し、ループ図を用いて問題の構造化を検討した結果、「知ってもらい動き出してもらうこと」が循環して広がっていく姿を実現することを明文化した。

◆事業の自立的な広がりを生むために、無償での実施拡大（コモンズ化）とマネタイズや組織運営のバランスについて検討を重ね、今後の事業戦略として、「フリー」領域とより深く学ぶ「プレミアム」領域からなる「フリーミアムモデル」の概念を整理・考案した。

◆理事 MTG や事務局 MTG において、システム思考ツール（ループ図）をもとに事業の課題やコモンズ化に向けた問題の構造化について継続的に意見交換を行った。 また、教員向けパッケージ開発のように具体的なテーマで、会員主体のグループとして議論と実践を進めた。

◆広報・マーケティングの専門性を強化し、戦略的発信を行うため、外部の広報 PR 人材の導入の準備をした。また、Web サイトの抜本的な刷新に向けた検討や、クラウドファンディング・企業版ふるさと納税を活用した資金調達と連動する広報戦略の立案を進めた。

＜発想力豊かで伸びやかで自律的に活動できる組織の在り方を目指す＞

◆アンドパブリック株式会社と協働してビジョンマップを作成・検討し、キーパーソン 21 の長期アウトカム（ありたい姿）を「一人ひとりが輝く will-being®な社会～共に生きる・共に創る～」と明文化した。

◆自律的に活動できる組織のインストールに向け、DXO（RINGO プロセス）などの新たな意思決定プロセスや運営のあり方について学んだ。

◆個人で活動できる「わくナビ（個人）パートナー」制度のトライアルや認定要件の作り込みを進めた。

◆自律的な活動主体として地域チームが今後も生まれていくことに備えて、地域チームの口座管理の負担軽減や適正化のため、休止口座の整理や事務局による一元管理などの検討を行った。

◆会員間の情報共有ツールとしての Discord の利用促進を図った。

◆「キーパーソン 21 の日」等、会員やチームと対話する場を定期的に設け、意見交換や情報収集を行った。

◆定期総会の第二部において、自律分散型組織やプログラムのコモンズ化、個人パートナー制度等に向けたテーマ別の意見交換ワークショップを企画・実施し、会員同士で考えを深め合った。

■効果/考察

◆ビジョンマップやループ図を用いた構造的な議論から、事業拡大の阻害要因が可視化され、「学校」や「居場所」を通じて「保護者」へのアプローチを重視する事業戦略の軸を打ち立てることができた。

◆外部の広報専門家を招聘し、事業戦略と一体となった中長期的な広報体制の基盤を構築開始。

◆組織運営においては、「コモンズ化」と「会員が伸びやかに自律的に活動できる組織」という大きなパラダイムシフトに向け、これまでの「ノウハウを守り、管理する」方針から「やりたいことを応援し合い、誰もが活用して広げる」方向へと、組織全体の意識や仕組みを大きく変革させるための土台を築くことができた。

（２）　その他の事業

1．寄贈品、グッズなどの物品販売
2．著作、出版物の制作・販売
3．会員のサークル活動支援事業

特になし

※「わくわくエンジン」、「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」「will-being」は、特定非営利活動法人キーパーソン 21 の登録商標です。